

ふじみサラダボール子育て情報

「知的発達」

令和4年11月9日号

板橋富士見幼稚園



思考豊かに育てよう

人間は、幼児期から「考える」ことが出来る知能があります。人間以外の生き物には、こうした思考する知能は無いという説もあります。動物は考えているように見えても、それは反復によって反射的に行っているとも言われています。つまりこの思考する知能は、人間に授けられた大切な能力です。

では、この能力はどのような環境で育てれば、豊かになるのでしょうか。人間には豊かな心情と学習する力があります。心情は、周囲の大人達の関わりによって獲得されていきます。快の感情と不快の感情の経験の深さによって、思いやる心や周囲を受け入れる心が形成されていきます。そのため幼児期には人間の醜さや、怖さ、恐怖、残酷さなどを過度に経験しないことが大切であると言われます。子どもの前で、大人が泣き叫んだり、大きな声で叱ったりすることは慎む必要があります。よって、刺激の強い動画の視聴などには十分注意を払わなければなりません。



もう一方の知的学習は、「考える」習慣を育てて行くことが大切です。聞かれたことに対して、結果を伝えることより、考えるチャンスをいつも与えていくことで、多面的に考える習慣が身に付いていきます。つまり【 $1 + 4 = 5$ 】を教えるのではなく、【 $1 + \square = 5$ 】で5にするためには、1と、あといくつ必要なのかを考えさせる思考です。子どもに聞くと、2と2、3と1、1を4個…など様々な面白い答えが返ってきます。



これが、幼児期に必要な多面的思考です。常に、答えを教えるのではなく、「どうしたらいいのかしら」と疑問を投げかけてみてください。実は、このような思考回路は、遊びを沢山経験している子どもほど高いと言われるのです。周囲の大人が子どもにどのように接するかによって多面的思考が育つのです。生活の中でなるべく対話することに心がけ、疑問詞を投げかけてみてください。面白い返事が返って来ますよ。

【写真：園庭の3つのミカンがオレンジ色になり、みんなで少しずつ刻んで味わいました。「甘くてちょっとすっぱい!」「もっと食べたいな…!」大切に育てて見守ってきたからこそ、特別な味がしました。】